



## リハビリ利用者様の最近の好事例とお声をご紹介します

### ① 90歳代女性 廃用による筋力低下で立ち上がり動作に時間がかかっていたが改善した症例

外出頻度低下に伴い、筋力低下・歩行動作の不安定性があるためリハビリ開始。初回訪問時、立ち上がり動作にかなり時間がかかる。ソファから立ち上がりができない。レンタルで手すりを設置していたが、上手く立てない状況が続いていた。ソファや家具を買い替えた方がいいのでしょうかとご家族の方からご相談もあり。立ち上がり動作を観察させていただき、正常の立ち上がり動作に比べ、足関節の背屈、体幹の前傾が乏しく後方重心の状態で立ち上がっておられました。

そのため動作指導や動作練習を行い、また自宅でできる簡単な下肢の筋力トレーニングをお伝えする。

1週間後の訪問時にはスムーズに立てるようになっており、簡単に立てるようになりました。本当にありがとうございます。と感謝の言葉をいただきました。ご家族の方からもサッと立てるようになり本当に助かりました。もっと早くからリハビリをお願いしていたらよかったとの声もいただきました。

現在のご家族の方とまた外出に行きたいという目標達成に向け、歩行能力の向上を目指しリハビリを継続しています。

### ② 利用者様の安否確認

独居やご夫婦のみの利用者様へ災害時の避難場所、避難経路等お伝えし、災害時安否確認して下さる方の確認をする。ベランダや玄関先の片付け具合の確認。いざという時の水や食料品の確認。声掛け等を実地させて頂いたところ「あなた達、そんなことまで心配してくれるの。ありがとう」と感謝のお言葉をいただく。脚に自信がなく、1人では避難が無理ですと仰る方が大半の為、携帯の充電器、懐中電灯などひとまとめにして台風に備える。

### ③ 70代女性 左大腿骨遠位端骨折によりお休みされいた デイを再開された症例。

R5年10月に転倒、左大腿骨遠位端骨折と診断。観血的骨接合術後、病院でリハビリ、12月に退院。ご本人希望は「以前のように歩行器で歩きたい」当初は、左膝関節の動作時痛と荷重時痛、膝折れが認められ、疼痛が生じる為に歩行訓練には消極的。ROMex、リラクゼーション、ストレッチ、筋膜リリース等で左膝関節の疼痛の軽減を図り、下肢・体幹筋力増強訓練、歩行訓練等を実施。

歩行距離が伸びると左膝に疼痛、前腕支持型の歩行器を提案。左膝への負担が軽減し達成可能な目標を決めて歩行訓練を実施。

目標達成により少しずつ自信を持たれ、4月よりデイ再開。気さくでお話好きな方なのでデイでの交流目標達成という小さな成功体験を積み重ねる事で歩行に対して自信を持たれたのがポイントでした。

クレド訪問看護ステーション本部 ☎ 072-681-4670

阪急高槻 ☎ 072-609-5208 吹田 ☎ 06-6170-6760